

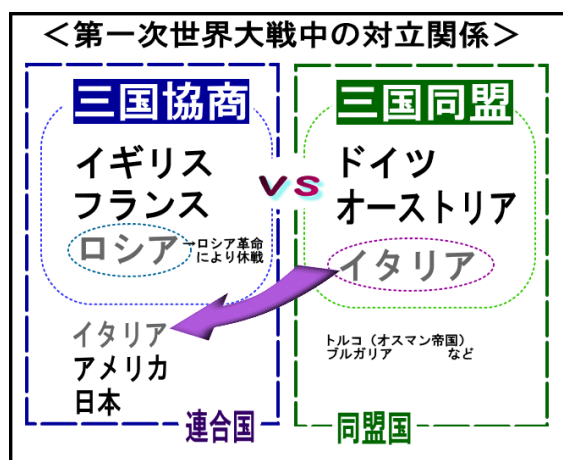
10月7日、ハマスという武装勢力によるイスラエル攻撃、それに呼応したイスラエルからの報復と戦争状態への突入という事態が発生しました。ウクライナとロシアの戦争も終わりの見えない2023年の秋、どうして戦争は無くならないのかと、思われている方も多いと思います。

フランクフルト総領事館からもこの週末、両勢力を支持する団体によるデモが予定されているので外出には一層注意するよう通達がありました。一体なにが起こっているのでしょうか？ できるだけ簡略にこの国際問題をご報告してみます。

## 1. 第一次世界大戦

キリストをはりつけで処刑したのはユダヤ人であるとしてキリスト教化された欧州社会では基本的に差別、迫害の標的になってしまいます。シェイクスピアのベニスの商人に登場する悪徳商人シャイロックはその象徴です。キリスト教社会では卑しい職業とされた金融業などにユダヤ人は商才があり才覚にたけて勤勉な民族だったというだけですが、私は事あるごとに反日を唱えるどこかの国々の反応と日本人へ評価と共通するものを感じます。

ドイツ、トルコ、オーストリアといった同盟国への対抗の為、英国は各国のユダヤ人社会に支援支持を求めます。勝利の後に現在のイスラエルの地にユダヤ人国家の設立を約束します。1917年、有名なバルフォア宣言です。



## 2. 第二次大戦とナチス

ナチスによるユダヤ人迫害の結果、イスラエルに欧州、世界中からユダヤ人が帰郷の思いで移住します。ユダヤ人を迫害したのはナチスだけでなく、全ヨーロッパの根本感情だったことはあまり知られていない事実です。ドイツと交戦したポーランド、そしてソ連でも実はユダヤ人は嫌われていたのです。そんな中、避難するユダヤ人向けにリトアニアの領事、杉原千畝氏が6000通の通過ビザを発行したお話は命のビザとして語られています。同様にユダヤ人を雇用して助けたドイツの実業家シンドラーも素晴らしい人物です。



### 3. イスラエル建国と中東戦争

1948年建国当初数万人だったユダヤ人は、世界中からの帰国者で徐々に国家としての体裁を整えます。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地エルサレムは誰のものか、そんな思惑を中心にアラブ諸国と対立は深まります。国連によるイスラエルの承認後も1948年から20年以上4回にも渡ってイスラエルとアラブ諸国は戦争を繰り返します。1974年の第4次中東戦争ではシリアとエジプトからイスラエルは東西の挟撃を受けます。戦車部隊は限られています。シリアとの戦いに勝利したイスラエル軍でしたが、翌日戦車部隊は無いとの情報でエジプト軍が攻勢にでます。イスラエル軍は東西2000kmを輸送するトレーラー部隊を準備していたのです。移動時間中、戦車搭乗員が休養、補給を得たことはもちろんです。いないはずの戦車部隊にエジプト軍は敗走しました。以降アラブ諸国は戦争ではイスラエルに勝てないことを認識せざるを得ませんでした。



#### 4. 和平がさらなる闘争の原因となる。

当初イスラエルと対峙、現在のハマス同様武力によるユダヤ人駆逐を目指したパレスチナ解放機構ですが、二国の存在を互いに認めたオスロ宣言の受け入れもあり、イスラエルとの共存に舵を切り替えます。2023年現在、軍事バランスで世界18位、その科学技術水準は先進国以上と発展したイスラエルの存在はもはや認めるしかなく、大義名分ではパレスチナを取り戻す方針を唱えるものの、アラブ諸国は一国、また一国とイスラエルとの国交樹立に向かっています。アラブの盟主と自他共に認めるサウジアラビアもその動きを見せ始めた昨年来、アラブ諸国のハマスへの援助が次々と打ち切られています。

穏健派のパレスチナ解放機構側も現在の指導者アッバス議長が86歳と高齢で後継者を誰とするかは未定です。ハマスとしては将来の主導権を見据えて、この辺で少し暴れて存在感をアピールする狙いがあった、というのが今回の開戦の動機の一つです。かつて無名の一勢力に過ぎなかったファハトのアラファト議長が武力闘争で成功し、名を上げたことを先例としているのでしょう。

1973年の第四次中東戦争から50年が経過、アラブ諸国がイスラエルの承認に向かい、事態が良い方向に進むかと思われたのですが、残念ながらイスラエル、そしてパレスチナ側過激派（つまりハマス）双方に停戦や和平を望まない勢力がいます。ハマスの背後に、イラン、中国、ロシアの支援があることも事態を一層複雑化しています。

ガザ地区を実行支配するハマスは、220万人といわれるアラブ系住民を人質にしているようなものです。毎回戦闘終了後にアラブ諸国、国連などから出される復興支援や食料援助がその資金源だからです。今回の攻撃にハマスが使用した多数のミサイル、最新式のドローン兵器などは一体どこから来ているのでしょうか？

基本的に米国を中心に西側諸国はイスラエルを支持していますが、イスラムの聖地、東エルサレムを武力占領し返還に合意しながら実行しない、アラブ系住民に様々な嫌がらせを続けるなどイスラエル側にも様々な良くない行動があることも事実です。



イスラエルの国旗の真ん中に描かれたダビデの六角星 アメリカに多いデビット、バイクのハーレーダビッドソンなどはユダヤ人由来の姓名、ロックフェラー、ロスチャイルド、など名立たる財団もユダヤ人が創立したもので、アメリカがイスラエルを支持する基本的理由はここにあります。アラブ諸国を刺激すると思われたが在イスラエルのアメリカ大使館がエルサレムに移転されました。結局何も起きませんでした。

数千発と言われるミサイルで攻撃を仕掛けたハマス、ガザ地区の市街地に報復するイスラエル、どちらが正しいと断定することはできない歴史的・宗教的・政治的背景があることをこの限られた文面でご報告するのは難しいですね、日本にとっても決して遠い国の戦争、対岸の火事ではありません。過去の1973年の第四次中東戦争に際してアラブ諸国が取った石油戦略の結果起こったオイルショック同様に事態が発生する可能性は十分あります。一日も早い平和が実現することを願っています。